
PANDORA

神崎昂

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

PANDORA

【Nコード】

N6758Y

【作者名】

神崎昴

【あらすじ】

これは光の国という平和な国で暮らす1人の少年がとある組織と関わることにより少しずつ眠ってる力を開花させていき、数多くのテロリスト、殺し屋、侍、忍者、海賊などと闘いを繰り広げ世界を壊滅から救っていく物語である。

第1巻 第1話 パンドラの箱（前書き）

これは光の国という平和な国で暮らす1人の少年がとある組織と関わることにより少しずつ眠ってる力を開花させていき、数多くのテロリスト、殺し屋、侍、忍者、海賊、賞金稼ぎなどと闘いを繰り広げ世界を壊滅から救っていく物語である。

第1巻 第1話 パンドラの箱

風間乱丸「ふあゝ・・・だるい！校長の話だるいしサボるか・・・」
これがこの物語の主人公。現在高校2年生である。

朝倉利子「何やってるの？早くしないと始業式はじまるよ？」

乱丸「ダルいから一緒にサボろっか？」

乱丸はふざけて利子の小さな胸に顔を突っ込む。

乱丸「んゝ小さい！俺やっぱ巨乳の良さわかないわ！貧乳サイコ
ー！とくに利子の！！」

利子「お前は怪物くんか！！つか胸さわるな！ほらいくぞ！！」

乱丸と利子は遅れて始業式に参加する。

赤星功太「遅いぞ二人とも！何やってたんだ？」

利子「ごめんごめん！この子が言うこと聞かなくなつて！！」

乱丸、利子、功太の3人は小学生からの幼馴染である。

クラスのHRが始まる。

山田先生「はい！皆出席！！今日から2学期が始まります。まだ夏
休み気分の人も多いようですが切り替えてやって行きましょう！そ
して最近物騒な誘拐や殺人などの事件が相次いでるので気をつ
けましょう。」

星野晋作「大丈夫かな？僕、なんか怖いよ・・・」

西河優子「大丈夫よ！！あの先生いつも大げさだからね。」

乱丸「利子！今日、カラオケ行こう！！俺、トライアングルゲーム
の曲の振り付け覚えたんだ！んゝやっぱ短髪のディスクが1番可愛
いな！ストレートのリズムやパーマのヴォイスもいいけど・・・」
利子「ごめん！今日急いでるんだ！！」

乱丸「最近いつもそうじゃん！じゃあ・・・仕方ないから功太！」

功太「悪い！俺もなんだ！」

乱丸「チエツ！」

後藤五月「あの・・・乱丸君ちよつと話が・・・」
乱丸は屋上に呼び出される。

乱丸「えっ！好きってまさか俺のこと？」

五月「・・・だめならいいんです！ただ・・・ずっと伝えられずにいるのは良くないかなって！」

乱丸「ごめん！俺好きな人いるから！でもありがとう！！うれしかった。誰かに告白されたの初めてだったから。」

五月「そうかやっぱり利子ちゃんのこと・・・うつん！気にしないで！！じゃあまた明日！！」

五月は悲しそうに帰っていった。この後、悲劇が起きるのである。

ブルート
冥王星「分かったなサム必ず乱丸を誘き寄せるんだ！そして彼に眠ってる力を目覚めさせるのだ！！」

サム「はい！かしこまりました！冥王星に出された金額どおりの仕事は果たして見せます！！」

冥王星「では切るぞ！」

浅利剛「なあ洋子知ってるか？」

風間洋子「ん？」

剛「100人殺し事件のこと。」

洋子「ああ知ってるわよ。ある少年が指を鳴らしてその瞬間にナイフが100人の人間の胸に刺さって死んだんでしょ。怖いわよね。」

剛「にしても、なんで一瞬であれだけのことが出来るの？・・・本当に信じられない。一体どんなエレメントの使い手なんだ？」

洋子「何エレメントって？」

剛「知らないのか？全ての人間に等しく眠っている潜在的な力のことさ！場合によってはコンテンツって言い方もするみたいだけど俺

は良くしらねえ！」

洋子「ん？」

剛「どうした？」

洋子「あれっってお兄ちゃんの学校の制服・・・うわ！怖い顔の男の人に車で連れ去られちゃった！」

そこに乱丸が現れる。

乱丸「洋子・・・どうした？」

剛「あつ！お兄様！さっきあなたと同じ学校に通ってると思われる女の子が連れさらわれてしまいました。」

乱丸「そうか！っつて誰がお兄様じゃ！まだお前らの交際を認めたくわけじゃないんだぞ！」

洋子「はあくお兄ちゃん本当に面倒くさい。」

乱丸「あ？ところでどんな奴だった？」

洋子「確か小柄で髪型がポニーテールでヘッドホンしてたかな？」

乱丸「それっつてまさか・・・五月か？くそっ！どうやって探せばいいんだ！」

タケル「心配ないですよ！」

突然PCをいじってる少年が現れた。

乱丸「お前誰だ？」

タケル「僕はタケル。あなたの友達のメアドが分かれば一瞬で居場所分かりますよ。僕のハッキング技術を持ってすればね！」

乱丸「これだ！」

タケルはPCを使い一瞬で五月の居場所を見つけた！

乱丸「第三倉庫の裏か！ありがとう・・・っつてあれ？
気付いたらタケルの姿はなかった。

英樹「急いでるんだろ？乗れよ！」

利子「話は全て聞いてた。」

功太「ちようどいい！今日は任務が休みだ！」

乱丸「任務・・・？まあいい早くしてくれ！！！」

乱丸、利子、功太は英樹の車で第三倉庫へ向かう。

サム「ふん！来たか！」

五月「乱丸君！！来てくれたの？」

乱丸「今すぐに助けるからな！」

サム「まあいい！皆すぐにあの世へ送ってやる。」

サムはナイフを3本取り出し、乱丸に向かって投げた。

乱丸「ぐあく肩が！！くそっ！！」

五月「乱丸君！」

サム「苦しそうだな！じゃあそろそろ楽になるか？」

サムは杖に仕込んだ刀を取り出した。そして・・・

サム「ヒヤハゝ死ね〜！！」

乱丸「ウィンドエレメント風の元素チャージ！！」

乱丸の掌を緑色のオーラが覆う。

サム「・・・これがこいつのエレメントか？やはり冥王星の言っていた通りの・・・だが俺の攻撃の方が速い！」

乱丸「れっぶうししょう烈風掌！！」

乱丸が掌を刀のようにサムの胸を切り裂き、サムは倒れた。

乱丸「ハアハア・・・なんだこの力は？」

乱丸は訳が分からなくなり出血の量と自分のしたことに対する困惑でその場に倒れ込む。

第1巻 第1話 パンドラの箱（後書き）

次回、記憶喪失の少年が登場。

第1巻 第2話 記憶をなくした少年（前書き）

乱丸は自身に眠ってる力を覚醒させ殺し屋を倒し、そして混乱で乱丸も倒れてしまう。

第1巻 第2話 記憶をなくした少年

利子「えっ？嘘でしょ？乱丸もエレメント持ってたの？」

功太「いざとなったら俺の“火の元素”^{ファイアエレメント}や利子の“水の元素”^{ウォーターエレメント}で倒そうと思ってたが必要なかったようだな。」

利子「あっ！そうだ！！忘れてた！五月ちゃん。大丈夫だった？」

五月「うん！大丈夫！！皆がすぐに駆けつけてくれたおかげで助かったよ！」

利子は五月の縄をほどいた。

そして乱丸、五月は病院へ搬送される。

五月は検査の結果体に異常がなかったためすぐに帰宅。乱丸は肩の傷が深かったため3日間だけ入院することとなる。

入院1日目

乱丸「病院って・・・意外と暇だな！まあ学校行かずに済むからいいけど。ちよっとコンビニ行ってなんか買ってこようかな？ウオ！」

乱丸はある少年とぶつかる。

乱丸「悪い！大丈夫か？」

名前のない少年「ああ！大丈夫だ！君こそ大丈夫？肩怪我してるんじゃないのか？」

乱丸「なんてことねえよ！！とここでお前、名前なんて言うの？俺、乱丸！」

名前のない少年「分からないんだ・・・」

乱丸「いやいや・・・そんなことないだろ？なんで嘘つく？名乗りたくないなら無理して名乗らなくてもいいぞ。」

名前のない少年「いや・・・本当に分からないんだ！自分が誰なのかもどこから来たのかも・・・気付いたらここについて記憶が全くないんだ！」

乱丸「記憶喪失か・・・ごめん！」

名前のない少年「いや！いいんだ！」

乱丸「あのさ・・・友達にならない？功太も利子も全然見舞いに来てなくて暇なんだよね。」

名前のない少年「ありがとう！うれしいよ！」

乱丸「よし、じゃあこれから名前呼ぶとき困るから俺が名前付けてやる！・・・『空』なんてどうだ？」

空「気に入ったよ！いい名前だね！！！」

乱丸「よし！お前はこれから空だ！」

乱丸と記憶をなくした少年『空』は友になる。しかしこの乱丸も少年もこれから事件に巻き込まれていくこととなる。

そのころとある部隊の本部では

機械「パスワード認証完了！」

風間蓮「第5班無事帰還しました。」

永沢誠司「よし！良く戻ったな！！例の殺し屋は捕まえたのか？」

松本裕「はい！・・・しかし我々が現場に到着したら殺し屋が倒れていました。命には別状なかったですが胸に切られた後がありました。」

遠藤麗菜「あれほどの大きな男を倒せる男がまさか我々月光以外にいるとはね・・・ん？」

遁馬「馬の名前」「ヒヒーン！」

三浦翔「第7班も無事に帰還しました！」

第7班の三浦翔は馬の上に乗って帰還した。

誠司「・・・他のメンバーはどうした？」

翔「はい！遁馬があまりに暴走して早く走るので馬車が途中で転落してしまい。途中でいなくなっていました。私は“動物の果実^{モンスターフルーツ}”の力でなんとか遁馬とともに帰還しました。」

誠司「・・・そもそもなんで今どき馬なんか？」

翔「すいません！私が車を使おうとすると遁馬嫉妬して襲い掛かっ

てくるんです！」

誠司「まあいい！会議を開くから皆、班員を集めて会議室へ集合！」

そのころとある喫茶店では

北沢風神「えっ！マジで乱丸入院したのかよ？」

南海光一「それはまずいな！早く見舞いに行かないと！じゃあなマ
スター！」

英樹「おう！また来るんだぞ！特上パフェと特上サイダーご馳走し
てやるからな！」

風神と光一は喫茶店を出て乱丸の病院へ向かう。

風神、光一もまた乱丸、利子、功太の幼馴染であり、風神、光一は
別の高校に通っている。

英樹は乱丸、利子、功太、風神、光一の行きつけの喫茶店のマスタ
ーである。

利子「全く・・・ほっときやいいものを・・・」

功太「まあいいじゃねえか！これでこの店には3人しかいないんだ
！」

英樹「ああそうだな！」

英樹は店の札をOpenからCloseに変える。

英樹「さあ！集会を開くぞ！内容は他でもない。突如発覚した乱丸
の力についてだ！」

英樹が本棚をずらすと地下へ続く階段が現れる。

第1巻 第2話 記憶をなくした少年（後書き）

利子、功太、英樹の正体とは？

第1巻 第3話 怪力の桜（前書き）

冥王星とは何者？

英樹、利子、功太のつながりとは？

第1巻 第3話 怪力の桜

とある暗いアジトにて・・・

エリー「サムは失敗したようですね。」

エリー・・・冥王星ブルーターに雇われた女傭兵スパイ

冥王星「いや！成功さ！何故なら乱丸が何色のオーラを扱えるのか・

・何のエレメントを秘めてるのかを知ることが出来たからな！さて、では次の任務だ！！神風隊かみかぜたいの5番隊ごばんたいを乱丸が入院した病院へ送り込む。そこには私が殺したくて仕方なかった元総理が入院してる

から調度いい！派手に荒らしてもらおう。くくく・・・神風隊の5番隊長のツチノコは“土の元素”グラウンエレメントの使い手！土の元素は5大元素グラウンエレメント

の中で1番攻撃の範囲が広く一点集中時の攻撃においては1番効果
が大きい！！さてさて乱丸は私らの組織に入れるかそれとも殺すか
？」

そのころ特殊部隊「月光」の会議では。

永沢誠司「あのサムという男。やはり我々が捜査している組織と絡
んでいた！」

永沢誠司ながさわせいじ・・・月光の最高指揮官。

風間蓮「だが、例の組織には金で雇われていただけで詳しい情報は
持っていないかった。」

風間蓮かざまれん・・・？月光 第5班 班長？乱丸の父親

松本裕「そうか・・・」

松本裕まつもとゆたか・・・月光 第5班 班員。

浜田守「ところで第7班はいつになったら帰ってくる。」

浜田守はまたまもる・・・月光 第5班 班員 司令塔リーダー。

三浦翔「もうそろそろ帰ってくる頃なんだが・・・」

三浦翔みやうあきひろ・・・月光 第7班 班長

遁馬「ヒヒーン！！」

遁馬^{とんま}・・・月光 第7班 馬？

遠藤麗菜「お前のせいだろ!？」

遠藤麗菜^{えんどうれいな}・・・月光 第5班 班員

そのころ馬車から転落した第7班の班員達は・・・

植田健「痛^{いた}えな!くそ遁馬の野朗!帰ったらただじゃ置かねえぞ!」

原田桜「本当に・・・」

植田健^{うえだけん}・・・月光 第7班 班員

原田桜^{はらいたけ}・・・月光 第7班 班員

原田の携帯「プルプル・・・」

原田「はい!!えっ!？」

そのころ入院してる風間乱丸、空は・・・

ナースA「きゃ〜!」

空「お姉さん!いいおっぱいしてますね!Eはあるんじゃないですか?」

空・・・記憶喪失の少年

空はナースの巨乳を揉んで楽しんでた!

乱丸「そうだ空!そうやって記憶を失う前の感覚を取り戻すんだ!」

空「乱丸君も誰かの揉みなよ!」

乱丸「じゃあ俺は貧乳っぽいこの人のを・・・あ〜やっぱ貧乳に限るわ!C以上とか魅力感じねえ!」

空「え〜うそ?僕は断然巨乳派だよ!この人どう見てもA以下じゃん!おっぱいあるの?」

乱丸「いやA以下っていくつだよ!にしても流石に小さいな!まさかお前男じゃないよね?」

乱丸は顔を上げた瞬間凍りつく・・・

原田「久しぶりだね乱丸!」

空「もしかして知り合い?」

乱丸「まずいぞ！空！殺されるぞ！こいつは父ちゃんの所属する組織『月光』のメンバー『怪力の桜』だ！」

原田「本当にあんたは相変わらずだね！久しぶりに重いのくらいなさいー！」

乱丸「ぎゃー！！！！！」

乱丸と空は桜の怪力で思いつき殴られる。

月光の会議

誠司「ということことで桜を病院に送ることにした。乱丸くんの警護もそうだが、元首相が入院中だ！万が一のときのためだ！」

蓮「桜か・・・乱丸の怪我が悪化してないといいが・・・」

そのころ、英樹のバーでは。

英樹「誰もいないな！」

久野英樹ひさのひでみ・・・？ ROOTSルーツのリーダー？ “木の元素”ツリー エレメントの使い手

利子「ええ！大丈夫よ！」

功太「おっ！メールだ！・・・はあ？」

タケル「お前から遅いぞ！」

赤星功太あかほしこうた・・・？ ROOTSルーツのメンバー？ “火の元素”ファイアエレメントの使い手

朝倉利子あさくらりし・・・？ ROOTSルーツのメンバー？ “水の元素”ウォーターエレメントの使い手

タケル・・・？ ROOTSルーツのメンバー？ ハッキング、情報処理

担当

英樹「それでは今回の話は他でもない乱丸を組織に入れる件についてだ！まさか“風の元素”ウィンドエレメントが使えたとはな！明後日退院だよな？ すぐにも引き入れるぞ！」

功太「その件なんだが・・・」

英樹「どうした？」

功太「乱丸の入院が1ヶ月に伸びたらしい。複雑骨折だそうだ。」

英樹、利子、タケル「いったい何があったー！？」

？「お取り込み中すいません！」

英樹「おお！待ってたぞ！」

利子「だれ？このきれいな女の人？」

英樹「紹介しよう俺の大学時代の同級生でROOTSの新メンバー、

エリーだ！」

エリー「よろしく！」

第1巻 第3話 怪力の桜（後書き）

エリーがROOTSにスパイとして潜入！？

第1巻 第4話 オリンパス（前書き）

冥王星^{プルート}の雇った女傭兵エリーがROOTS^{ルート}にスパイとして潜入してしまつ。

第1巻 第4話 オリンパス

エリーがROOTSに入会して数日後・・・
タケル「え・・・エリーさんは英樹さんとた・・・ただの友達なんですか？」

エリー「そうよ！ただの大学時代のお友達」

エリーはわざとセクシーな口調で話した。

英樹「おい！エリー！タケルを誘惑するな！！こいつはまだ中学2年だぞ！」

エリー「あら！ごめんなさい！けど、中学でここまでパソコンを使いこなせるなんてすごいわね！私機械系苦手だから。」

功太「おっ！また乱丸からメールだ！」

利子「なんて？」

功太「『現在、月光のメンバーの原田桜が元総理の警護のために病院に来てる。今、色んな意味でいそがしいから見舞いには来なくて結構だぜ！来たら死ぬかもよ？』だとさ！」

利子「なんであいつの入院期間が延びたのかなんとなく分かったよ！」

功太「俺もだ・・・どうせあいつのことだ！貧乳の話でもしてキレさせたんだろう・・・どこかの誰かさんと同じで意外と気にしてるからな！」

利子「なんか言った？」

功太「・・・いいえ「恐」」

利子「あんたも乱丸と同じ目に合うか？」

功太「ウオ・・・助けてくれ！」

エリー「猛蛇蹂躞！！！」

エリーが墨で紙に蛇の絵を書き始める。そしてその蛇の絵が紙から飛び出し利子の体を縛りつける。

利子「・・・嫌（泣）なんでこんなところに蛇がいるのよ？ちよ

つとしかも動けないし・・・誰かこれ取ってよ！私、蛇だけはだめなのよ！」

英樹「久しぶりに見たな！エリーのコンテンツ。」

エリー「解除！」

へビが墨になる。

利子「あれ？」

エリー「フフフ！お嬢さん可愛いわね！私は“ペイント 絵画の要素”の持ち主。」

功太「コンテンツ？」

英樹「お前達にまだエレメント 要素と要素について説明してなかったな。つまり・・・」

タケルがハッキングである情報をキャッチする。

タケル「あつ！！・・・やばいぞ！！」

英樹、功太、利子「おい！マジかよ？」

エリーの携帯「プルプル・・・」

エリー「ちよつと失礼！」

エリーは英樹の喫茶店の外へ出る。

エリー「もしもし？フルート 冥王星ですか？」

冥王星「ああ！私だ！5番隊を桐山病棟に送り込んだぞ！もうじき着くはずだ！目的は二つある。一つは無差別な襲撃に見せかけて入院してる鳩田はとた 元首相を殺すこと。そしてもう一つが乱丸をオリンパスに引き入れるか殺すかを見定めることだ。この組織の首領ボスの神崎昂様が行方不明になってからというもの神風隊の壊滅が後を絶たない。1〜16番隊のうち、12、13番隊はROOTSによって潰つぶされ。8、10、11、14番隊は月光によって潰された。まさか一桁台の部隊まで潰されるとは流石にこの組織も危ないかもしれないな。」

エリー「あの・・・私は月光にスパイとして潜入した方が良かったのでは？今話を聞く限りでは明らかに月光の方が危険かと？」

冥王星「分かってないな！エリー！月光の方にはすでに暗殺部隊の

方から何人が潜伏させている。お前にはそこでやってもらいたいことがあるから、私はROOTSに送り込んだんだ！心配するな！いざというときのために私も動きを進めている。昂様ほどではないが私も頭脳が発達している。様々なケースを計算しているのだよ！」

フルトール
冥王星・・・？『オリンパス』の最高幹部？現在、ボス首領代理

そのころ桐山病棟では

桜「乱丸。お前にちよつと話がある。」

乱丸「ん？」

桜「この前、殺し屋倒しただろ？」

乱丸「は？」

桜「私、見ちゃったんだよね！あんたが殺し屋のこと斬り倒したの。」

乱丸「実は・・・そうなんだ！俺にも良く分らないけど・・・親父には？」

桜「言えるわけないだろ！知ってるのはあたしだけさ！」

空「乱丸君！桜さん！ジューズ買って来たよ！」

空が廊下から走ってきた！そしてあの男とぶつかってしまふ。

はただまめお
鳩田豆男「ぼぼぼぼ！危ないではないかえ坊主！」

鳩田豆男・・・光の国の前首相

空「ごめんなさい！」

豆男「あれ？それだけかえ？わちきが誰か分からのかえ？」

空「すいません・・・分かりません！」

豆男「ぺ〜ぺぺぺ！ぼ〜ぼぼぼ！そんなはずないだろうがえ？元首相のわちきを・・・アホカンに総理の座を奪われたこのわちきを知らんはずないえ？」

乱丸「こいつ記憶失ってるんだよ！だからあんたのことも多分覚えてない！」

豆男「ぼぼぼぼ！嘘をつくでないえ！このム力つくガキどもが！」

豆男が空を殴りつける！

乱丸「て・・・てめえ！」

桜「よせ！仮にも首相だ！」

豆男「ぽぽぽ！仮にもね・・・そなた気に入った！わちきの愛人にならんかえ？おおく可愛いおっぱいだえ！」

豆男は桜のおっぱいを触った。

豆男「ぽぽぽ！冗談だえ！それじゃあな！」

桜「やっぱあいつ殴っていいか？」

そのころ外では・・・

5番隊隊員A、B「では我々は病院内の入院患者をロビーに集めて見張ればいいんですね！」

ツチノコ「ああ！そうだとおも！だが！本当の目的は忘れるな！総理の暗殺はお前ら3人に任せよう！」

5番隊隊員C、D、E「はっ！」

ヤシ「だが中にはあの風間乱丸、月光の原田桜もいる。決して気を抜くな！」

5番隊隊員全員「ははっ！」

ツチノコ「まずは先制攻撃だ！」

ツチノコの両手を茶色のオーラが覆い、その両手を病棟に向ける
5番隊隊員A「おお！出たぞツチノコ様の“土の元素”グラウンエレメント！！！」

ツチノコは両手から岩の塊を召喚する。

ツチノコ「“岩飛礫”いわつぶて！！！」

病棟に向かって岩の塊を掌から大砲のようにして撃ち、病院の外壁を破壊する。

病棟内では

入院患者「なんだこの振動は？」

病院のスタッフ「いったい何事だ？」

場面は外に戻る

ツチノコ「さあ！いくぞ！」

ツチノコ・・・オリンパス特殊部隊『神風隊』の5番隊隊長
ヤシ「刀がうづく！」

ヤシ・・・オリンパス特殊部隊『神風隊』の5番隊副隊長

第1巻 第4話 オリンパス（後書き）

一体病棟はどうなってしまっのか？

乱丸は？桜は？空は？

興味ないと思うけど鳩田は？

第1巻 第5話 風間乱丸、原田桜vsテロリスト（前書き）

桐山病棟がオリンパスの5番隊に占拠されてしまう。

第1巻 第5話 風間乱丸、原田桜vsテロリスト

・英樹の喫茶店にてタケルがハッキングでとある情報を掴む。

タケル「どうするんだよ・・・オリンパスの5番隊が桐山病棟を占拠する予定らしいぞ！」

久野英樹「あそこには鳩田元総理もいるんだよな。」

赤星功太「ああ？あんな奴どうだっけいいだろ？それより乱丸が心配だ。」

朝倉利子「でもアイツは“風の元素”ウインドエレメント 持ってるし、月光の桜さんもついてるから大丈夫なんじゃない？」

功太「まあそうだな！俺らの出る幕じゃねえだろうな！」

英樹「バカ言え！今度の敵は5番隊だぞ！今まで戦った12、13番隊とは強さの桁が違うんだぞ！とくに1〜5番隊は化け物ぞろいだ。隊長だけでなく隊員の戦闘能力は半端ないぞ。恐らく月光の奴らでもまともに太刀打ちできないぞ。」

・桐山病棟3階放送室

病院のスタッフ「なんなんですかあなたたちは？」

ツチノコ「ちよつと・・・放送室を貸してもらえるだけでいいんですよ。」

スタッフ「いい加減にしてください。ここはあなたたちのような人の来るようなところでは・・・」

ヤシ「十字架斬り！！」
スタッフ「ぐは！」

放送室にいたスタッフがヤシに二本の刀で斬り殺される。

ツチノコ「全く黙って使わせればいいものを。」

放送「ピンポンパンポン！」

ツチノコ「病棟の皆様聞こえますか？ただ今をもってこの病棟はテロリストに占拠されました。入院患者、看護婦、病院スタッフの方々は1階のロビーに集合願います」

・桐山病棟1階ロビー

隊員A「おら！さっさとしろ！」

隊員B「ここに集めろって言われてんだよ！！」

しばらくしてツチノコ、ヤシが降りてくる。

ツチノコ「全員集まったか？」

隊員A「恐らくこれで全員です。」

ヤシ「嘘をつけ！重要ながないじゃないかねえか！」

隊員B「全てのフロアは確認したつもりですが・・・」

ツチノコ「風間乱丸、原田桜、鳩田」笑「元首相、首相の秘書がまだ見つかってない。」

ヤシ「笑」ってあんた・・・」

ツチノコ「何が悪い！？鳩ポツポのことについて触れただけマシだろ？まあいい！第2、3、4フロアにはちゃんと隊員がそれぞれいる。見つかるのも時間の問題だな！よしこの袋にお前達の携帯を入れてもらう。もしも入れなかった奴がいたら制裁を加える。いいな？」

隊員B「お前今入れなかったな」

患者A「本当に持ってないんです（泣）」

隊員Aがポケットの中を確認する。すると携帯が現れる。

隊員A「持ってんじゃねえか！しかもこの110って番号なんだ？まさか警察に電話しようかと？」

隊員B「隊長お願いします。」

ツチノコ「グラウンディング」「土の元素チャージ!!!」・・・「石包丁いしほうちよう」
ツチノコは口から先の尖とがった鋭い石の刃物を召喚し患者Aに向かって飛ばす。

患者A「ぐは・・・」

患者B「あんた、なんてことするんですか？」

ツチノコ「へへへ！こいつ馬鹿か？見ず知らずの男を庇いやがったよ！思いやりの心？笑わせんな！」

患者B「あんたら腐ってるよ！」

ツチノコ「残念だな！お前はちゃんと携帯渡したのにこいつを庇ったがためにここで死ぬんだよ！！」「岩剣石刀がんけんごくとう!!!」

ツチノコは刀を象かたどった岩を召喚し患者Bを斬りつける。

ツチノコ「それじゃ！俺とヤシは外を見張ってるからよ。このカス共の見張りはお前らに任せるぞ！」

隊員A B「はっ！」

患者C「めちやくちやだ！」

隊員A「これからは余計なことを言った奴は殺す。いいな？」

・桐山病棟4階 倉庫裏

鳩田豆男「いったい何が起こってるんだえ？テロリストがまだうるついでるえ！」

秘書「しっ！お静かに！見つかってしまいま・・・」

隊員C「みいつけた！」

隊員Cが発砲する。

秘書「鳩田さん危ない！」

秘書が鳩田の顔を床に叩きつける。

鳩田「ぎゃゝわちきのイケメンフェイスが崩壊するゝ」

秘書「大丈夫ですよ！あなたの顔は元々崩壊してますので問題ないです。」

隊員C「うるさい奴らだ！」

隊員Cが秘書と鳩田に発砲する。

何かの物音「カラン・・・」

原田桜「バカ！見つかるだろ？」

隊員C「ん〜？」

隊員Cは銃を向けながら恐る恐る角を曲がる。しかし誰もいなかった。

風間乱丸「今だ！」

空「うおりゃ！」

そらが隊員Cの足をつかむ。

隊員C「貴様離せ！こいつどつかで見たことあるような・・・」

桜がデコピンの構えをする。

隊員C「デコピンだと？貴様なめてるのか？」

桜「ただのデコピンではないぞ！“桜印キョウイン！！”」

桜のデコピンを喰らい隊員Cは気絶する。

乱丸「・・・デコピンだけでテロリストが撃沈？なんなんだ？やっぱり月光の奴らは化け物だらけだ！」

桜「さてさてこれからどうする？」

乱丸「桜さんと空は先に外へ出ててくれ！2階、3階のテロリストは俺が倒す！この数日間俺が何もせずただ病院で寝ただけだと思

ウィングエレメント

うか？そう！ちゃんと“風の元素”の特性について研究してたんだ！こいつらは今の俺の腕を試すには調度いい！ここに鳩田総理が倒れてるけど・・・まあほつといていいだろう！」

桜「お前！頼もしいな！だが外にはツチノコとヤシがいる。流石の私でも1人で神風隊の隊長を倒すなんて無理だ！しかもツチノコは神5の1人だ！」

乱丸「そんな心配はする必要ないみたいだぜ！見てみるよ！窓の外を！」

・桐山病棟 正門

ツチノコ「くくく！ついに月光のお出ましか！」

ヤシ「つか・・・今どき馬って・・・」

遁馬「ヒヒッン！！」

月光第7班の三浦翔と植田健が愛馬の遁馬に乗って登場する。

植田健「ヒヒッンじゃねえよいつもお前は荒っぽいんだよ！」

三浦翔「さてさて神5のツチノコが相手とは腕がなるぜ！」

第1巻 第5話 風間乱丸、原田桜vsテロリスト（後書き）

次回、月光第7班vsツチノコ、ヤシ！！
化け物どうしの対決！

第6話 三浦翔、植田健、遁馬vsツチノコ、ヤシ（前書き）

桐山病棟に入ろうとする三浦翔、植田健、遁馬の前に5番隊隊長のツチノコと5番隊副隊長のヤシが立ちはだかる。

第6話 三浦翔、植田健、遁馬vsツチノコ、ヤシ

・桐山病棟 正門

三浦翔と植田健が銃を構える。

翔「さあ！降参するんだ！」

ツチノコ「泥粘土どろねんど!!!」

ツチノコが掌から泥を召喚し銃口に向けて飛ばす。

銃口が泥で塞がれてしまう。

健「貴様何をした？」

ヤシ「くくく！撃たない方がいいぜ！今、発砲したら銃が爆発してお前らの方が吹き飛んじまうぜ!!!」

健「くそ!!!」

ツチノコ「じゃあこつちから攻撃するか！石針いしはり!!!」

ツチノコが口から大量の石で出来た針を飛ばす。

翔「せりや〜!!!」

翔が斧オノを回転させ、ツチノコの飛ばした針を全て弾く。

ツチノコ「中々やるじゃないか！」

翔「いくぞ遁馬！」

遁馬「ヒヒ〜ン」

翔は遁馬に飛び乗る。

ツチノコ「石針千本いしはりせんぼん!!!」

ツチノコが石の針の量を増やし攻撃の範囲を広める。

翔「遁馬、移動するぞ！走馬灯そうまとうだ!!!」

遁馬「ヒヒ〜ン！」

ヤシ「消えた？」

ツチノコ「一体どこへ？」

遁馬「ヒヒ〜ン！」

翔「こつちだ！」

遁馬がヤシの場所に、翔がツチノコの場所に現れる。

ヤシ「フン！こんな馬斬つてやる！何？こいつなんて力だ！」

遁馬が足でヤシを踏みつけようとすることをヤシが刀で受け止める。

ヤシ「だめだ！抑えきれない・・・」

翔「バイソンアックス 牛の戦斧！！」

翔が斧をツチノコに振りかざす。

ツチノコ「どせきどりゆうへき 土積土流壁」

ツチノコは土の壁を召喚し翔の攻撃を防ぐ。

ツチノコ「さらに！サンド 茶土山土！！」

ツチノコは翔の背後にも土の壁を召喚し、二つの壁で挟み押しつぶす。

ヤシ「ハハハ！お前の飼い主さん死んだぜ！ペシャンコだよ！！」

遁馬「果たしてそうかな？」

ヤシ「ばか！強がるな！・・・え？しゃべった？つかなんで人間になつてるんだ？」

遁馬「俺はあの動物の果物の一つモンスター フルーツ “ウマウマの果实”かじつ を食べた馬人間なのさ！」

ヤシ「成る程！まさか能力者がいたとはな。」

遁馬「ちなみに能力者は俺だけじゃないぜ！」

ツチノコ「フン！口ほどにもないとはこのこと。」

ツチノコの背後に野牛が現れる。

ツチノコ「んな？馬鹿な！貴様・・・能力者だったか・・・」

翔「俺は“ウシウシの果实 バイソン モデル野牛”の能力者だ。」

ツチノコ「くそ！こんな予想外だ！どろにんぎょう 泥人形！！」

ツチノコは土から泥のくぐつを10体召喚する。

ツチノコ「やれ！」

泥のくぐつのうちの5体が植田健に襲い掛かる。

健「フン！くだらない！知ってるか？聞いて驚くな！俺は月光で1番釣りと歌と踊りに長けてるんだ！！」

ヤシ「お前が1番くだらねえ！！戦闘に関係ねえじゃねえか！」
ヤシは目玉を飛び出す。

遁馬「お前よそ見してていいのか？」

遁馬は獣人状態になっていた。

ヤシ「えっ？」

遁馬「おしくら圧鞍！！」

ヤシは遁馬の両足で踏まれ倒れる。

健「見せてやる！俺のコンテンツを！」

健は両手をゴムのように伸ばし病院の門の柱を掴む。

健「ラバー護謨の弓矢！！」

健は勢い良く頭から泥のくぐつに飛び込む。

健「ラバー護謨の銃乱打」

ツチノコ「想いつきりあの漫画の主人公のパクリじゃねえか！！」

健は腕が何本にも見える程連続でパンチを放ち泥のくぐつを5体一気に倒す。

ツチノコ「なに〜？」

健「ラバーゴムゴムの実じゃねえ！コンテンツ護謨の要素」だ！！」

翔「さんぞうぶんしん残像分身！！」

翔は残像が見えるほどの速い速度で動いた。

翔「そつそつおん走草斬！！」

泥人形を5体斧で一度に倒す。

ツチノコ「なんだと？」

遁馬「残りはお前1人だけ？」

・桐山病棟 3階廊下

空「やばいよ！乱丸君！桜さん！テロリストが2人も来やがった！」

風間乱丸「桜さん！空！早く1階へ行つてくれ！！ここは引き受けたぞ！」

原田桜「おい大丈夫か？敵に両側から挟まれてるじゃないか？」

空「いいから行こう！乱丸君を信じるんだ！」

乱丸「桜さん気をつけてくれ！1〜5番隊の隊長は神5って呼ばれてて桁違いの強さなんだ！」

桜「そんなこと分かってるよ！」

空「乱丸くんこそ気をつけて！！！」

桜と空は1階のフロアへ向かう。

乱丸「逃げ場はなしみたいだな！いや〜・・・参った・・・」

隊員D、E「死ね！！！」

隊員DとEは剣を構え乱丸に襲い掛かる。

乱丸「れっぶうしよつりようじん烈風掌 両刃！！！」

乱丸は同時に左の手と右の手から左右に向けて斬撃を放つ。

隊員D、E「ぎゃ〜！！！」

隊員DとEを倒す。

乱丸「よし！そろそろ外の奴らも終わってる頃だろう。何!？」

乱丸は窓の外を見て驚く。

第6話 三浦翔、植田健、遁馬vsツチノコ、ヤシ（後書き）

果たして勝ったのは月光か？ツチノコか？

第1巻 第7話 ツチノコを倒せ！！（前書き）

乱丸は窓の外を見て混乱する。

第1巻 第7話 ツチノコを倒せ！！

風間乱丸「おい！嘘だろう？なんで、月光がやられてんだよ？」

窓の外には三浦翔、植田健、遁馬が倒れていた。

ツチノコ「ハアハア・・・余計な体力使わせやがって。」

ヤシ「全くだぜ！こんなに苦労した相手は久しぶりだ・・・」

ツチノコ「ん？あれは！おい！お前が乱丸か？」

乱丸「・・・やべえ！見つかったじゃねえか！！」

ツチノコ「お前に聞きたい！我々の組織に加わるか？それともこの場で死ぬか？さあどうする？」

乱丸「どっちも嫌に決まってるだろ？お前らのことはよく知ってるぞ！能力のこともな！今じゃ有名なテロリストだからな。ニュースで報道されてた家に土砂崩れが起きた事件。あれは自然災害なんかじゃなくお前の仕業だろ！！他にもどうでもいいけど首相官邸が砂嵐で潰されたり、雷で一つの街が消えたりしたのもお前の仲間がやったことだろう？」

ツチノコ「砂嵐は確かに俺の仲間の仕業だが雷は違う。ところで我々の組織に加わる気も死ぬ気もないということはお前俺に勝つ気なのか？」

乱丸「もちろんだ！！」

ツチノコ「自惚れるな！若僧が！！降りてきやがれ！！」

乱丸は窓から病院の外へ飛び降りる。

乱丸「まずいな・・・あんなこと言っちゃったけど月光のこいつらですら勝てないのに俺が勝てるわけないだろ・・・」

ツチノコ「やれ！ヤシ！！こいつは俺が戦うまでもない。」

ヤシ「分かりました！喰らえ“雷落いかづちおとし！！”」

ヤシが刀を乱丸の頭上から振りかざす。

乱丸「痛っ！！」

乱丸は額に軽く傷を負う。

乱丸「この野郎が！“レップウシヨウウエーブ烈風掌 波！！”」

斬撃が波を描きながらヤシに向かう。

ヤシ「はっ！こんなもん効かねえ！」

乱丸「ならば・・・」

ツチノコ「“どろねんど泥粘土！！”」

ツチノコは泥の塊を乱丸の両手に向かつて飛ばす。

乱丸「なんだ？この泥？取れないし重たい。手が上がらない。しかもオーラが手から放出できない。」

ツチノコ「ははは！これでお前は能力が使えない！」

そのとき病院の正面のガラスの扉が割れ倒れた隊員2人が飛んでくる・・・

ヤシ「痛っ！」

ヤシは倒れた隊員に潰される。

乱丸「桜さん！やったのか？空も無事だったか？」

原田桜「楽勝だよこんな奴ら！雑魚ばっかで退屈してたところだ！」

ツチノコ「ヤシ！斬れ！」

ヤシ「“じゅうじか十字架斬り！！”・・・あれ？いねえ？」

桜は突然姿を消した。

ツチノコ「ヤシ！上にいる！気をつける。」

桜は空中にいた。

桜「“桜坂桜坂”」

桜は力カト落としの構えをする。

ヤシ「こんな攻撃俺の刀で受け止めてやる！」

桜「おらあー！！」

ヤシ「ぐはあー！！」

桜の力カト落としを喰らいヤシは倒れる。そして桜の蹴りで辺り一体の大地が砕ける。

ツチノコ「はあ？なんだと？“グラウンエレメント土の元素”が使えるわけでもないのにここまで地割れを起こすなんて・・・にしてもヤシは今日・・・押し潰されてばっかだな。」

乱丸「おい！ツチノコ！俺が掌を使えなくなつたからって油断して
るんじゃない！俺がいつ掌以外からは斬撃を放てないと言つた？“

風の元素 チャージ！！”」

乱丸は脚にオーラを集める。

乱丸「“烈風脚！！”」

乱丸は蹴りとともに斬撃を飛ばす。

ツチノコ「ふふふ！バカめ！今の俺は“岩分身”だ」

斬撃を喰らいツチノコを象つた岩が崩れる。

乱丸「本物はどこだ？」

空「乱丸くん！！あそこ！」

乱丸と桜は門の外へ出る。

桜「外か？」

ツチノコ「ははは！来て見る！」

ツチノコは高高山に向かつて走つていった。

ツチノコ「にしてもさっきの“烈風脚”とか言う技、暗殺部隊の“
六式”の技の一つ“嵐脚”にそっくりだ。まああいつらは“風の元
素”をチャージせずには斬撃を放てるから乱丸ごときはすぐもなん
ともない。」

桜「追いかけるか？」

乱丸「ああ！」

空「でも中にいる患者の人たちが混乱してる。他の病院に移した方
がいいんじゃない？」

桜「けどどうすれば？」

風間蓮「俺たちに任せろ！」

風間蓮率いる月光第5班が現れる。

乱丸「父ちゃん！裕さん！麗菜さんまで！」

松本裕「後のことは俺たちに任せろ！それと桜はもつと胸をつける
！」

遠藤麗菜&桜「それ今関係ないだろ！！」

裕は麗菜と桜に殴られる。

空「あの？僕は・・・」

蓮「君、記憶を失くしてるらしいな。念のために俺たちと来てもらう。」

桜「どうでもいいことだけど撃たれた鳩田元首相はどうする？」

裕「ああ？どうでもいいのにわざわざ聞くな？」

麗菜「どうでもいいけど今回の任務って鳩田元首相の護衛じゃなかったっけ？」

麗菜は目を飛び出した。

蓮「さあ！乱丸！！桜！！想いつきり暴れて来い！！！！神5の1人ツチノコを倒して伝説になるんだ！！」

乱丸、桜「もちろんだ！！！！」

第1巻 第7話 ツチノコを倒せ!! (後書き)

次回、赤星功太、朝倉利子、久野英樹らROOTSのメンバーが
いに登場!!

第1巻 第8話 絶壁（前書き）

風間乱丸、原田桜はツチノコを追い、松本裕、遠藤麗菜は桐山病棟
正門内で患者を救急車に乗せる手伝い、風間乱丸は正門外で空から
話を聞こうとする。

第1巻 第8話 絶壁

・桐山病棟 正門内

植田健「済まねえな！俺がいながらこんなことに・・・」

遁馬「まさか俺たちがこんなになるとはな。」

三浦翔「負けたものは仕方ないだろう！！」

第7班の健、翔、遁馬は重症を負っていたため他の患者たちと一緒に別の病棟に搬送される。

鳩田豆男「おのれ！何故わちきがこんな目に！！おのれテロリスト！！おのれ韓国人！！かんくにひてただじゃ置かんぞえ！！そして何故だれもわちきを助けにこない？・・・うつ「血」」

豆男はどこからか狙撃される。

豆男「おのれ、どこだ？・・・」

豆男は倒れる。元首相が撃たれたが誰も反応しなかった。

・とあるビルの屋上

ジャック「私は狙った相手を決して外さない。どれだけ遠くにいようが壁の向こうにいようがこの目で全て捕らえることが出来るのです！」

ジャック・・・オリンパスで冥王星プルートに雇われた殺し屋。狙撃担当。

・桐山病棟 正門外

風間蓮「君は一体何者なんだ？」

空「本当に何も覚えてないんです。病院にいる前の記憶がないんです。」

蓮「ならいいんだ！いや・・・何故か君と初めて会うような感じがし

なかつたんだ。」

空「僕のこと知ってるんですか？知ってるなら僕が誰なのか教えてください。」

蓮「いや！分からん！気のせいだったようだ。」

浅利剛「あれ？お父様じゃないですか？」

浅利剛「……？風間洋子の彼氏？中学3年生？アーチエリー全国大会で優勝

蓮「ん？ああ君か？別に俺は乱丸と違って君たちの交際には反対しないがその呼び方はやめてくれ。」

風間洋子「良かった！お父さんは反対じゃないんだね。」

風間洋子「……？風間乱丸の妹？中学3年生

蓮「ところで今日はどうした？」

剛「ああ！お兄様のお見舞いですよ！！けどなんか荒れてますね。

おっ！お父様？あそこにでかい鳥がいるの見えますか？今からあれを打ち落として見せます！！」

・桐山病棟 正門内

南海光一「なんだこれは？」

南海光一「……？風間乱丸、朝倉利子、赤星功太の幼馴染？高校2年生

北沢風神「乱丸の見舞いに来たつもりだったのに、これじゃまるで戦争の後だ！」

北沢風神「……？風間乱丸、朝倉利子、赤星功太の幼馴染？高校2年生

遠藤麗菜「何？あの大きな鳥は？」

・桐山病棟上空

赤星功太、朝倉利子、久野英樹、エリーらはエリーの墨で描いた巨大な鷹に乗り空を飛んでいた。

利子「すごい！エリーってこんなことも出来るの？」

エリー「まあね！私は墨で描いた獣を具現化させることが出来るの」

功太「おい！見てみるよ！病棟内での戦いは終わったみたいだ！俺たちの出る幕はなかったのか？」

利子「見て！あそこ！乱丸と桜さんが誰かを追いかけてる！！」

英樹「あれは、5番隊隊長のツチノコだ！！正直あの二人だけで倒すのは無理だろう。」

功太「だったら俺たちはあっちを助けに行った方が良さそうだな！」

英樹「だな！おいタケル！乱丸は本当に1人でテロリストを倒したのか？」

英樹はROOTSのアジトにいるタケルに電話する。

・ ROOTSのアジト

タケル「ああ！勿論だ！病棟の監視カメラハッキングしてちゃんと見てた！」

・ 高大山近くの草原

風間乱丸「はあはあ！追いついたぞ！」

ツチノコ「まだ！戦わねえぞ！ここじゃ俺の力は発揮出来ねえ！“地割れ！！”」

ツチノコは自身の能力で草原に地割れを起こす。

原田桜「なんだこれは？底が見えない！」

乱丸「なんだよこりゃ！桜さんの馬鹿力でも無理なんじゃ・・・」

桜「また殴りたいのか？」

乱丸「ばか！やめろ！こんなところで殴ったら更に地面が割れて谷

底に落ちる・・・」

桜「だめだ！あいつどんどん高山に向かっていく。乱丸つかまれ！」

桜は乱丸をおんぶする。

乱丸「うひょ！！」

桜「こら！興奮するな！ここを跳び越えるぞ！“桜木跳さくらぎはな！！”」

桜は乱丸をおんぶした状態で谷を飛び越える。

・桐山病棟 正門外

蓮「何言ってる！動物を無差別に殺すな！」

洋子「それにいくらあなたでもあんなに高いところを飛んでる鳥を撃つのは無理よ！」

空「そうですね！やめといたほうがいい！」

剛「大丈夫ですよ。ちゃんとダメージの少ない羽根の端っこの方を狙いますから、では撃ちますよ！！“魔弦まげんの弓ゆみ”」

剛は弓矢を構える。

剛「“魔弾またんの矢や！！”」

剛は鳥を目掛けて弓矢を放つ。

・桐山病棟上空

功太「おい利子！見たか？桜さんが乱丸おんぶしてあれだけ深い谷を跳び越えたぞ！利子？・・・利子が消えた？」

エリー「あそこだわ！何か当たって鷹の絵が崩れちゃったんだわ！！」

・高山近くの草原

乱丸「よし！追いついたぞ！」

桜「観念しやがれ！！」

ツチノコ「はあ・・・高大山までもう少しだったのに・・・“断崖だんがい絶壁ぜつへき！！”」

桜「なんだこれは・・・」

乱丸「高すぎる壁だ！」

ツチノコは6mにも及ぶ岩の壁を召喚した。

・桐山病棟 正門内

病棟の中から傷だらけのテロリストが3人出てくる。

5番隊隊員C、D、E「お前ら！俺たちも別の病院へ運べ！」

松本裕「残念だが！お前らが行くのは刑務所だ！！」

玄関に倒れてたテロリストも起き上がる。

5番隊隊員A、B「いいから早くしろ！」

テロリスト達は患者に向けて発砲する。

ヤシ「いいぞ！やつちまえ！お前らの自由など存在しない！！！」

ヤシも崩れた岩から這い上がって出てくる。

南海光「大変なことになっちまったな！！！」

北沢風神「テロリストの奴らがいたのか！！どうする戦うか？ん？

空からなんか降ってくるぞ！」

利子「いや〜（泣）助けて！！！」

利子が上空から落下してくる。

・高大山近くの草原

桜「乱丸下がってる！この岩を打ち砕く！」

乱丸「いくら桜さんでもそればかりは無理だ！あんなに高くて分厚

い岩の壁をどうやって?」

桜「いいから任せな! “桜吹雪なぐりふぶき!!”」

岩の壁が壊れる。

乱丸「んな馬鹿な?ところでいつ攻撃したんだ?全く見えなかったけど……」

桜「当然だ!1秒間で100発くらいパンチしたからな!!」

乱丸「……」

乱丸は白目を向いていた。

第1卷 第8話 絶壁（後書き）

第1卷 - 完 -

キャラクター紹介？（前書き）

主な登場人物を紹介する。

キャラクター紹介？

中心人物

風間乱丸・・・この作品の主人公。

赤星功太・・・乱丸の同級生で幼馴染。ROOTSのメンバー。

朝倉利子・・・乱丸の同級生で幼馴染。ROOTSのメンバー

乱丸周辺

空・・・記憶喪失の少年。病院で乱丸と知り合う。

後藤五月・・・乱丸の同級生。乱丸に片思い中

星野晋作・・・乱丸の同級生。

西河優子・・・乱丸の同級生。

風間洋子・・・乱丸の妹。

北沢風神・・・乱丸、功太、利子の幼馴染。

南海光一・・・乱丸、功太、利子の幼馴染。

浅利剛・・・洋子の彼氏。

ROOTS

久野英樹・・・ROOTSのリーダー。乱丸、功太、利子、風神、

光一の行きつけの喫茶店のマスター

タケル・・・ROOTSのメンバー。ハッキング、情報処理担当。

月光

永沢誠司・・・月光の最高指揮官。

風間蓮・・・第5班の班長で乱丸の父親。

松本裕・・・第5班の班員。
浜田守・・・第5班の班員。司令塔リーダー。
遠藤麗菜・・・第5班の班員。
三浦翔・・・第7班の班長
原田桜・・・第7班の班員
植田健・・・第7班の班員
遁馬・・・第7班の班員

オリンパス

神崎昂・・・オリンパスの^{リーダー}首領。現在行方不明。
^{フルト}冥王星・・・オリンパスの最高幹部。現在^{リーダー}首領代理を務める。
エリー・・・冥王星に雇われた女傭兵。ROOTSにスパイとして
潜入。
ジャック・・・冥王星に雇われた殺し屋。鳩田元首相を射殺する。
サム・・・冥王星に雇われた殺し屋。乱丸の力を試すために利用さ
れる。
ツチノコ・・・神風隊5番隊隊長
ヤシ・・・神風隊5番隊副隊長

キャラクター紹介？（後書き）

これより第2巻スタート。

第2巻 第9話 ROOTSの闘い（前書き）

桜が巨大な岩の壁を破壊し、乱丸と桜はツチノコを追って高山山へ
入る。

そして病棟では・・・

第2巻 第9話 ROOTSの闘い

・ 高高山近くの草原

風間乱丸「なんなんだその馬鹿力？」

原田桜「ん？普通だろ？ところでどうする？あいつ見失ったじゃないか！！」

乱丸「そうこう言ってるうちに高高山についたぞ。」

桜「遅かったようだな・・・あいつはもうこの山の中にいるはずだ。」

乱丸と桜は高高山へ入る。

・ 桐山病棟正門内

乱丸のお見舞いをするために桐山病棟に来ていたこの3人が混乱する。

後藤五月「見て！あれ利子ちゃんじゃない？」

後藤五月・・・乱丸の同級生。

星野晋作「やばいぞ！あんな高さから落下したら死ぬぞ？」

星野晋作・・・乱丸の同級生。

西河優子「どうするのよ？ていっかなんであんなところから？」

西河優子・・・乱丸の同級生。

利子「なんでこうなるのよ？」

利子が上空から落下してくる。

ヤシ「なんだあれは？」

光一「あれは利子か？仕方ない・・・魔法の種弾！！」

光一は口から種を複数放出し病院の壁に植え付ける。

5番隊隊員A「なんだ？あれは？」

光一「バインネット“蔓の網”」

植えられた種から蔓が生え網を象り落ちてきた利子を捕まえる。

朝倉利子「助かった・・・光一ありがとう！「なに？今の技？」」

隊員A「ばゝか！助かってねえよ！お前ROOTSの朝倉利子だな？死ね！」

テロリストが利子に発砲する。

利子「ウォーターエレメント“水の元素” チャージー！」

利子は思いつきり空気を吸い込む。

「すいじょういじんへき水上水陣壁ー！！」

そして口の中で水に変換し放出する。そして攻撃は全て水の壁で弾かれる。

利子「光一！早く蔓をほどいてー！」

光一「おう！悪いー！」

蔓がほどかれ、利子が降りてくる。

隊員A「何なんだ今の技は？」

利子「はあ・・・面倒くさいけどやるしかないみたいね・・・」

・高山

乱丸「おい・・・あいつ本当にここにいるのかよ？」

桜「間違いない。あいつは私たちをここにおびき寄せるために逃げ続けてたんだからな。」

ツチノコ「へへへ！待ってたぜお前達！」

桜「やつぱりここにいたか？」

ツチノコ「ここからの俺はさっきまでの俺とは比べ物にならないくらい強いぞ！」ダグランドエレメント“土の元素”は大地を支配する力。つまり俺にとって

岩や渓谷、崖などが揃ったこの山ほど戦闘に適した場所はないってことだ！！潰れてしまえ！いわなだれ“岩雪崩”」

周辺の崖から複数の岩が転がり落ちてくる。

・桐山病棟正門内

利子「流牙りゅうが!!!」

隊員A「ぐは!!!」

利子は口から圧縮された水をドリル状に放出しテロリストの肩を貫く。

利子「水の元素ウォーターエレメント」それは水を支配する力。大気中の自ら地中の水にかけて全てを支配する。私が空気を吸えばその空気中の水分が私の体内で凝縮され水として放出される。しかもただの水じゃない私が放出した水は時に敵を貫き、時に敵に喰らいつき、時に敵を溺れさせる。水はわたぴにとつぺ最強の武器なのら・・・「ドヤ顔!」

五月「利子ちゃん・・・」決まった!」みたいな顔してるけど最後の方噛んだから締まつてない・・・」

隊員B「調子に乗るな小娘が!!!」

テロリストが利子を切り倒す。

利子「残念ね!」水分みずぶんしん身”よ!”

利子を象った水が元の状態水に戻る。

隊員B「どこだ?」

隊員C「おい!後ろだ!!!」

隊員B「?」

利子「残念だったわね!」水の元素ウォーターエレメントチャージ!!!」

利子は指先に水滴を集める。

利子「水鉄砲みずてっぽう」

利子は指を銃のようにして水滴を指先から放ちテロリストの頭を撃ちぬく。

隊員C「ぐあ!なんだ・・・これは?上から火の玉が降ってくる。」

利子「功太!」

功太は口から炎をマシンガンのようにして発射した。

赤星功太「炎雀えんじゃく」だ!俺は「火の元素ファイアエレメント」の使い手。炎を操るのさ!

功太はテロリストを1人倒してエリーの描いた鷹から降りてきた。

ヤシ「くく！これはエリーの“鳥獣偽画”ちようじゅうぎがじゃないか。あいつ上手く潜入したようだな！」

功太「いくぞ！“飛炎”ひえん！！”」

功太は口から炎を火炎放射器のように放射した。

隊員D「うわゝ燃える！！」

テロリストをまた1人撃退した。

功太「残るはあと2人か？」

久野英樹「いいや！1人だ！“木の元素チャージ”ツリーエレメント！！” “樹縛殺”じゅばくさつ！！”」

隊員E「おえ！苦しい！！」

英樹は木を地中から召喚し枝でテロリストを絞めて倒した。

第2巻 第9話 ROOTSの闘い（後書き）

次回、英樹VSヤシ！

第2巻 第10話 久野英樹 vs ヤシ（前書き）

功太、利子、英樹は5人のテロリストを撃退する。

第2巻 第10話 久野英樹VSヤシ

・桐山病棟 正門内

エリーが鷹から降りてくる。

エリー「蝶文^{チョウモン}」

エリーは紙に墨で蝶の絵を描く。そしてそれは紙を飛び出しヒラヒラとヤシの刀に飛び込んだ。すると、その墨は刀に文字を浮かばせた。

墨で書かれた文「うまく潜入したわ！しばらくは殺さずにこの子たちの行動を見張る。」

ヤシ「・・・了解！」

西河優子「なんなの？利子ってこんな力持ってたの？」

星野晋作「功太のやつ口から火吹いてやがった！！！」

後藤五月「テロリストを倒しちゃった・・・」

北沢風神「喫茶店の英樹さんも仲間なのか？」

南海光一「見た感じリーダーだな。まさか、あいつらも俺と同じで要素^{コンテント}を使えたとはな。・・・いや違う！英樹さんと功太と利子のは元素^{エレメント}か！」

・高大山

風間乱丸「すげえ！」

原田桜「まあな！」

桜はツチノコの技で落下してきた岩を全て粉碎していた。

ツチノコ「なかなかやるな！ではこれはどうだ？“岩柱^{がんちゅう}槍^{そう}！！！”

土の中から岩で出来た槍を大量に出現させる。

桜「かわすぞ！」

乱丸「ああ！」

乱丸と桜は攻撃を軽々とかわすがツチノコに追いつかれてしまう
ツチノコ「岩柱牢がんちゆうろう！！」

ツチノコは岩の柱で牢獄を作り乱丸と桜を閉じ込める。

・桐山病棟 正門内

風間蓮、風間洋子、浅利剛、空が正門内へ走ってくる。

浅利剛「鳥を撃ったつもりだったのに人が落ちてきたぞ！」

風間洋子「だからやめときなさいっていったでしょ？」

風間蓮「あの高さから落ちたら死んでるぞ？」

朝倉利子「あれ？皆揃ってどうしたの？・・・！」

利子は剛の弓を見て怒りが込み上げる。

利子「さつき私の鷹撃ったのあなたでしょ？」

剛「ごめんなさい」

利子「ごめんなさいじゃないわよ！下手すれば死んでたのよ？」

利子の後ろにヤシが現れ刀を構える。

ヤシ「死ね！」

久野英樹「利子！余所見するな！！まだ1人残ってると言っただろ
？」

英樹は自身の木刀でヤシの攻撃を受け止める。

ヤシ「何？たかが木刀で俺の攻撃を受け止めやがっただと？」

英樹「これはただの木刀じゃない。俺の“木の元素”ツリーエレメントに寄って作ら
れた特別な木刀だ。硬さは鉄並だ！！」

ヤシ「なるほど！“土の元素”グラウンエレメントの進化系か。面白い！」

英樹「功太！利子！エリー！乱丸の増援に向かえ！ここは引き受け
たぞ！！！！」

ヤシ「俺はお前のような相手を待っていた！・・・だが行かせはし

ない!!」

功太「利子！霧を出せ！」

利子は思いつきり空気を吸い込む。

利子「五里霧中!!」

利子は口から霧を吐き辺り一体を霧が包み込む。そして霧が晴れると。

ヤシ「?????…いねえ！」

英樹「これで1対1だ！」

第2巻 第10話 久野英樹 vs ヤシ（後書き）

果たして功太、利子、エリーは無事乱丸の元へたどり着けるのか？
そして閉じ込められた乱丸と桜はどうなる？

第2巻 第11話 木刀と真剣（前書き）

久野英樹とヤシは戦闘になる。

第2巻 第11話 木刀と真剣

・桐山病棟 正門内

久野英樹vsヤシ

ヤシ「ハハハ「笑」お前俺をなめてるな？まだ3対1・・・間違えた。4対1なら可能性はあったかもしれないが神風隊5番隊長の俺にお前が1人で勝つなんて無茶だ。」

英樹「じゃあ！そろそろ始めますか？」「二刀流 にとうりゅう 柳の舞 ヤナギ まい！！」

英樹は二本の木刀を持ち体を回転させる。

ヤシ「こんなもの効かねえ！」

ヤシは刀で英樹の攻撃を防ぐ。

ヤシ「一刀流 いっとうりゅう 雷落 いかずあとし！！」

ヤシは英樹の頭上から刀を振りかざす。

英樹「樹界壁 じゅかいへき！！」

英樹はシエルタートンネルのような、木製の半ドームを形成する。

ヤシ「ふん！木の壁か。だがこれくらいの壁・・・」「二刀流 にとうりゅう 十字 じゅう

架斬 じかぎり！！」

ヤシは二刀の刀をクロスさせて木の壁を切り裂く。

ヤシ「死ね！」「一刀流 いっとうりゅう 十手剣 じゅってけん！！」

ヤシは一刀の刀を英樹に突き刺す。

英樹「残念だったな！これは木分身 ぼくぶんしんだ！」

英樹を象った木はヤシに切られると同時に地中へ帰っていく。

ヤシ「どこだ？」

英樹「こっちだよ！」

英樹はヤシの後方に立っていた。

英樹「樹林槍 じゅりんそう！！」

英樹は腕を巨木へと変化させる。それは高速で成長し枝分かれを起こし先端を尖らせてヤシを突き刺そうとする。

ヤシは上手く避けるが周りに巨木の槍が刺さっていて動けない。

英樹「勝負ありのようだね！」

英樹は自身の腕から巨木を切り離れた。その後すぐに腕が再生した。英樹は巨木の上に飛び乗りヤシの方へ走っていく。

英樹「一刀流いっとうりゅう 唐松からまつの舞まい！！」

英樹は木刀でフェンシングの要領で連続してヤシを突く。

・高大山近くの草原

朝倉利子「まずいよ！こんな崖飛び越えられない。」

赤星功太「俺たちじゃ桜さんみたいに崖を飛び越えるなんて無理だ。」

エリー「底が見えないわね・・・「私の能力で鷹を作って渡らせることが出来るけど・・・まあいいわ！この子達がツチノコのところ

に辿りついた所で全員死ぬことは確かだものね・・・」

功太「一体どうすれば？」

エリー「鳥獣偽画ちようじゆぎが！！」

エリーは墨で鷹の絵を描きそれを具現化させる。

利子「そうだ！これがあるじゃない！！」

エリー「二人とも早く乗って。」

・高大山

風間乱丸「まずいな！閉じ込められたぞ？」

原田桜「こういうときのために私がいるんじゃないか！桜吹雪さくらふぶき！

！」

原田は連続のパンチで岩の牢獄を破壊する。

乱丸「行くぞ！突風大突破とつぷうだいとつぱ！！」

乱丸は口から突風を吹き出す。それは辺り一体の木が吹き飛ばすほどの威力だった。

ツチノコ「まずいな！ “土積土流壁どせきどりゅうへき！！”」

ツチノコは地面から土の壁を召喚する。

乱丸「桜さん！今だ！！」

桜「分かってるよ！」

桜は消えたように高速で移動した。

ツチノコ「お前？いつの間に俺の後ろに！まさか土の壁を通り抜けたのか？」

桜「いや！違うよ。」

突如土の壁が崩れだし。それとともにツチノコも吹き飛ばす。

桜「桜並木さくらなみき！！」

第2巻 第11話 木刀と真剣（後書き）

次回、英樹VSヤシ 決着！

第2巻 第12話 風間乱丸vsツチノコ(前書き)

桜の怪力でツチノコは吹き飛ばされる。

第2巻 第12話 風間乱丸vsツチノコ

桜「桜並木^{さくらなみき}”は高速で移動し敵の背後に回る技、移動する最中に敵を攻撃するが速過ぎて気付かれない。」

ツチノコ「おのれ！貴様！」

ツチノコは口と鼻から血を流していた。

ツチノコ「貴様ら俺を怒らせるとどうなるか分からないのか？」

風間乱丸「強がつてるけどもうボロボロじゃねえか！」

ツチノコ「^{ツリー}木の元素”や^{デザートエレメント}砂の元素”への進化もせず土の能力だけを極限まで極めた俺の技を見せてやる。」

ツチノコは指を地面に突っ込んだ。その瞬間地面にひびが入りサークルを描き乱丸と桜を囲む。

原田桜「なんだ？これは？」

ツチノコ「喰らえ！^{かいてんしたく}回転地卓！！」

ツチノコはまるでルーレットを回すかのように土のサークルを手で弾き回転させる。

桜「なんだこれは？」

乱丸「目が回る。」

ツチノコ「ハハハハハハハハハハ！！まともに動けまい。^{かじゅうがん}加重岩

錘^{すい}！！」

ツチノコは空中に巨大な岩のおもりを召喚する。

ツチノコ「自身の体や地中からただけでなく空中からも岩や土を召喚できるのは神風隊で俺1人だ！潰れてしまえ。」

巨大な岩のおもりが桜と乱丸のもとに落下する。

桜「^{かいあつか}開桜花！！」

桜は体をドリル状に回転させながらジャンプし岩のおもりに一撃パンチし岩を粉々に砕く。

ツチノコ「地面の回転を利用しただと？」

桜「くっ！クラクラする・・・乱丸！しっかりしな！」

桜は回転した地面から乱丸を救い出す。

乱丸「だめだ！まだ目が回る。」

ツチノコ「がんちゅうたいえいそう岩柱大鋭槍”」

ツチノコは掌から巨大な岩の槍を召喚する。

そして勢い良く桜の腹を貫く。

乱丸「桜さん！」

桜は倒れる。

乱丸「やべえよ！桜さんがやられた。俺一人で勝てるのか？やるしかない！”とつなごほう突風砲”」

乱丸は体内で空気を凝縮させ口から細く鋭い突風を吹き、銃弾のようにツチノコの肩を貫く。

ツチノコ「くっ！この馬鹿力の女がいないと何も出来ないと思ってたがお前も中々やるようだな！」

・桐山病棟 正門内

英樹はヤシに木刀で連続の突きを食らわされていた

ヤシ「くそ！俺がこんな攻撃で簡単にやられてたまるか！」

ヤシは巨木の槍を脱出する。

英樹「どこへ行った？」

ヤシ「上さ！喰らえ！”いっとうりゅう一刀流 いなつまお稲妻落とし！！”」

ヤシは空中から刀の先で英樹を突こうとする。

英樹「そんなの無駄だよ！”じゅりんぞう樹林槍”」

英樹は腕を巨木に変化させ巨木でヤシを捕らえそのまま地面に叩きつける。

英樹「どうやら勝負ありのようだな。」

ヤシ「・・・！なんだこれは？」

ヤシの周辺の地面から木の芽が生え瞬時に木に変わり。そしてヤシの手足を縛り付ける。

英樹「しんらばんじょう森羅万象！！”」

そしてヤシの背中から一本の角材の柱が生える。

ヤシは体を反り返らせて背骨を極める。

ヤシ「関節技だと？」

ヤシは泡を吹いて倒れた。

第2巻 第12話 風間乱丸vsツチノコ(後書き)

次回、巨大な蟻地獄が出現!?

第2巻 第13話 集合。(前書き)

ツチノコが最強の技を発動する。

第2巻 第13話 集合。

・高山 風間乱丸vsツチノコ

風間乱丸「口ほどもねえな！お前本当に神5の1人なのか？」
ツチノコ「・・・お前はどうかやら俺を本気で怒らせたらしい。」

乱丸もツチノコもバテバテだった。

ツチノコ「あつじく“蟻地獄”」

乱丸「何・・・？」

ツチノコの両手が地面に触れると乱丸の足元に蟻地獄が出現する。

乱丸「やべえ！沈む・・・」

乱丸は必死で走る。

ツチノコ「ハハハ！そうだ走れ走れ！だがどれだけ走ろうともお前の体力が減るだけだ！それよりもいいのか？その倒れてる女？」
桜の体が蟻地獄に沈みかけていた。

乱丸「桜さん！」

乱丸は手を伸ばそうとした。がしかしバランスを崩し乱丸も土に流されてしまう。

ツチノコ「ばかめ！仲間のことなど心配してるからだ！！」

と、そのとき

朝倉利子「こすいせん“流鞭！！”」

利子は口から吐き出した水を鞭状にして乱丸の元へ投げる。

利子「乱丸！桜さん！捕まって。」

ツチノコ「なんだ小娘！お前も死にたいのか？」どろくだんじ“土陸団子！！”」

ツチノコは地面そのものを球状に切り取り利子の方へ投げる。

赤星功太「ごうかえんだん“豪火炎弾！！”」

功太は直径が等身大ほどの火の玉を口から吐き土の団子に向かって飛ばす。

土の団子は崩壊する。

エリー「虎視眈々（こしたんたん）！！！！”」

エリーは墨で虎の絵を描きツチノコに飛ばす。

ツチノコ「お前どういづつもりだ？ “土積土流壁！！！！”」

ツチノコは地中から土の壁を召喚しエリーの攻撃を防ぐ。

エリー「蝶文！！！！”」

エリーは墨で蝶を書きツチノコが召喚した土に向かって飛ばす。土の壁に触れると墨は文字を象りだした。

墨で書かれた文字「ちよつとは攻撃した方が怪しまれないでしょ？ それに私の攻撃があなたに効く筈ないでしょ？」

ツチノコ「ああそういうことか！ てつきり裏切ったのかと・・・」
追加で文字が浮かび上がる

墨で書かれた文字「軽めに攻撃して。」

ツチノコ「仕方ないな・・・まあどうせこいつら全員死ぬからお前の任務はここで終わりだけだな。

“石針！！！！”」

ツチノコは石の針をエリーに向かって飛ばす。

エリー「蝙蝠傘！！！！”」

エリーは蝙蝠を象った傘を召喚する。それは当然墨で出来ている。そしてツチノコの石針を防ぐ。

そのころ利子は乱丸と桜を救い出す。

乱丸「助かった！ ところで利子お前の舌よく伸びるな！！」

利子「ばか！ これは水よ！！ あんたと同じで私も元素使えるのよ！！！！”」

功太「さあ！ ここからが本番だ！！ 水、火、風 vs 土。果たして勝つのはどっちだろうか？」

ツチノコ「仕方ない！ “ゴーレム”を召喚するか！！”」

ツチノコの両手が地面に触れると巨大な土の巨兵が出現する。

第2巻 第13話 集合。(後書き)

次号、ついに決着!

第2巻 第14話 ゴーレム(前書き)

ツチノコはゴーレムを召喚する。

第2巻 第14話 ゴーレム

朝倉利子「何これ？」

赤星功太「で……でけえ！」

エリー「ゴ……ゴーレム！？「これがツチノコのゴーレム……初めて見た！」

オリンパスに雇われていたエリーも初めてだったので驚いていた。
ツチノコ「ハハハ！これが出た時点で貴様らは終わった！さあ！死ねえ！」

ゴーレムが巨大な手を振りかざす。

久野英樹「“樹界壁”」

ヤシとの戦闘を終えた英樹が現れ、シエルタートンネルのような、木製の半ドームを形成しゴーレムの攻撃を受け止める。

英樹「なんとか間に合った。」

エリー「あなたがここにいてってことはアイツのこと倒したのね。」

英樹「ああ！」

エリー「流石ね！！「まさかヤシが敗れるなんて……」

利子「あの崖はどうやって越えたの？」

英樹「“樹林橋”で橋を作って渡った。これで帰ることもできるぞ。」

ツチノコ「ハハハ！お前らはここで死ぬから帰れねえよ！」

エリー「“獅子奮迅！！”」

エリーは墨で獅子を描きゴーレムに飛ばす。しかし効かない。

ツチノコ「ふっ！そんな攻撃効かない。「エリーの奴また無駄なことを……」

エリー「だめか……「分かってるわよ効かない事くらい。私の能

力はどちらかという戦闘よりもスパイに向いてるからね。」

功太「“烈火炎弾！！”」

功太は激しい炎を口から発しそれは広範囲に広がる。そしてゴーレ

ムを燃やす。

功太「まだだめか？」

ゴーレムはまだ倒れなかった。

利子「いいえ！功太の炎のおかげでゴーレムは水分を失ってもろく
なってる。後は私が弱点を突く“水大砲みずたいほう！！”」

利子は圧縮した水を玉上にして口から飛ばす。

するとゴーレムの欠片が飛び散る。

ツチノコ「なんだとゴーレムがどんどん崩れていく。」

英樹「“樹縛殺じゆばくころ”」

英樹は地中より木を召喚しゴーレムを縛り付ける。

原田桜「“桜吹雪さくらふぶき！！”」

桜は起き上がりゴーレムに連続のパンチを食らわす。

ゴーレムはとうとう崩れる。

ツチノコ「なんだと？」

桜「ぐはあ・・・」

桜は血を吐く。

乱丸「桜さん大丈夫かよ？ものすごい血出てるぞ。」

桜「ハアハア・・・大丈夫さ。そんなことより乱丸、利子・・・耳
を貸しな！」

3人は秘密の会話をする。

桜「分かったな？」

乱丸、利子「ラジャ！」

ツチノコ「なんだ？こそこそと？」

利子「“五里霧中ごりむちゆう”」

利子は口から霧を吐き出す。

ツチノコ「なんだ？前が見えねえ！」

霧が晴れると・・・

功太「“豪火炎弾ごうかえんだん！！”」

功太は口から火の玉を吐き出す。

ツチノコ「ばかめ！こんな攻撃避けられる！にしても乱丸はどこへ

消えた？」

利子「流牙りゅうが!!!」

利子は口から水のドリルを飛ばす。

ツチノコ「土積どせき土流壁どりゅうへき!!!」

ツチノコは土の壁で利子の攻撃を防ぐ。

桜「今だ！乱丸行け！」

乱丸が突如上空から現れる。

ツチノコ「そうか。あの桜とか言う女が霧が発生してる最中に乱丸を上空に投げ飛ばしたのか？」

乱丸「旋風掌せんふうしょう!!!」

乱丸は掌の中で空気を乱回転させ圧縮する。

ツチノコ「なんだこの技は？」

乱丸「喰らえ!!!」

ツチノコに掌に持った旋風の玉をぶつける。

そしてそれは大きな爆風を起こす。

利子「くっ！これじゃ私たちも立ってられない。」

ツチノコ「ぐはあ!!!俺がこんなガキに負けるとは・・・」

ツチノコは倒れた。

乱丸「か・・・勝った！神5のツチノコに!!!やった!」

桜「やるじゃないか!」

英樹「さすがだ・・・やはり俺はお前が必要だ!」

乱丸「あれ？喫茶店の英樹さん？なんでこんなところにな?」

利子、功太、エリー、桜「遅っ!」

英樹「まっ・・・いいや「呆」お前俺たちの仲間にならないか？お前の力はやはりすごい。ROOTSにとってお前は必要不可欠な戦力となるだろう。それにお前はこれから奴らに命を狙われることになる。そうなるとお前の友達や家族も危険だ。そんなとき俺たちで守ってやる。」

乱丸「よく分かんないけど!そんなにいうなら入ってやるか!利子ともっと一緒に入れるし」

乱丸は調子に乗って利子のおっぱいを揉む。

利子「調子に乗るな！！！」

利子は乱丸の頭を思いつきり殴る。

乱丸「いてえ！桜さんほどじゃないけど利子もなんて馬鹿力なんだ
！」

こうして乱丸はROOTSの一員となった。

第2巻 第14話 ゴーレム（後書き）

第1章 『ツチノコ編』 - 完 -

次号から新章突入！！

新たな敵登場！！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6758y/>

PANDORA

2011年11月26日01時08分発行